国立大学法人
大阪教育大学

教員養成課程　教育科学専攻（学校教育講座）　白井 利明

大人とのコンフリクトで青年はどう発達するか

先行世代との見方の違いから青年との間にコンフリクト（摩擦）が生じ、その解決が双方の発達を生み出すことがある。どうなされるのか、時間的展望の視点から考える。時間的展望とは、ある時点での個人の未来と過去への展望をいう。

親子のコンフリクト

青年期は親子のコンフリクトが生起しやすい時期である。青年男子が自分の反抗期を回想したところ、コンフリクトが内側に保持されて自分のなりたい大人像をつくっていた。母親が息子の反抗期を回想したところ、子どもの順調な社会化を確認してコンフリクトは解消していた。回想が一定の意味づけを与えていた。

青年職員と中堅職員のコンフリクト

ある団体の若年者と援助者双方に「青年の自発性を大切にしているのだが、ちっとも聞きに来ない」というコンフリクト場面での双方の心理を推測するよう求め、双方が話し合った。その結果、双方とも日頃からの言葉かけや話しやすい雰囲気づくりが大切だとした。現在進行形の推測だが、見方を共有することで時間軸が拡大したと想像される。

教師と生徒のコンフリクト

中・高校生の回想によれば、傷ついた教師の対応は「気まぐれで叱られた」「えこひいきされた」「どんなに頑張っても認めてもらえない」などである。大学生がコンフリクト場面を回想して教師の心理を推測し、教師にも生徒の心理を推測するよう求めた。大学生は自分の気持ちを伝えた時、コンフリクトが解消していた。教師は現在進行形の想起だが、大学生は回想が一定の意味づけを与えていた。

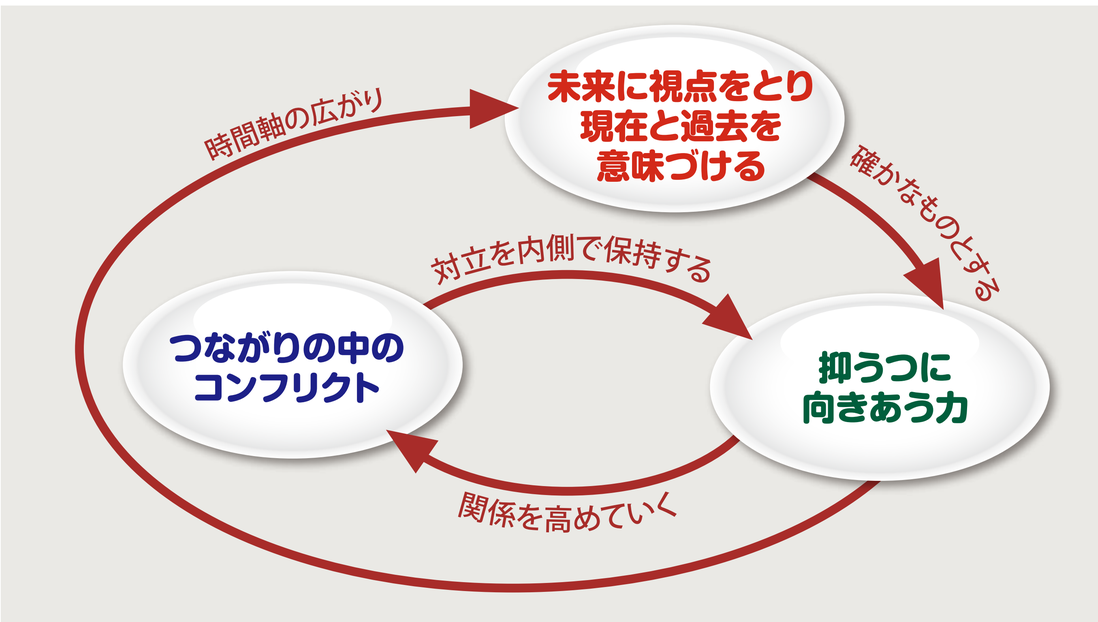

図1　粘り強く自分で自分を高めていく過程のしくみ

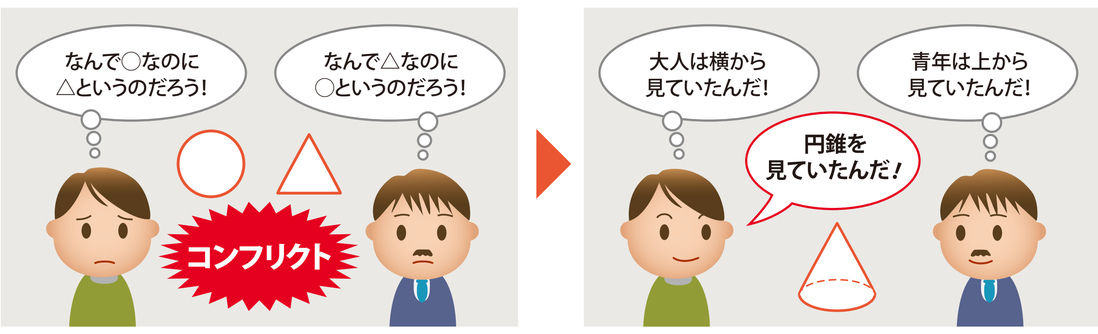

図2　コンフリクトの解決とひとの発達

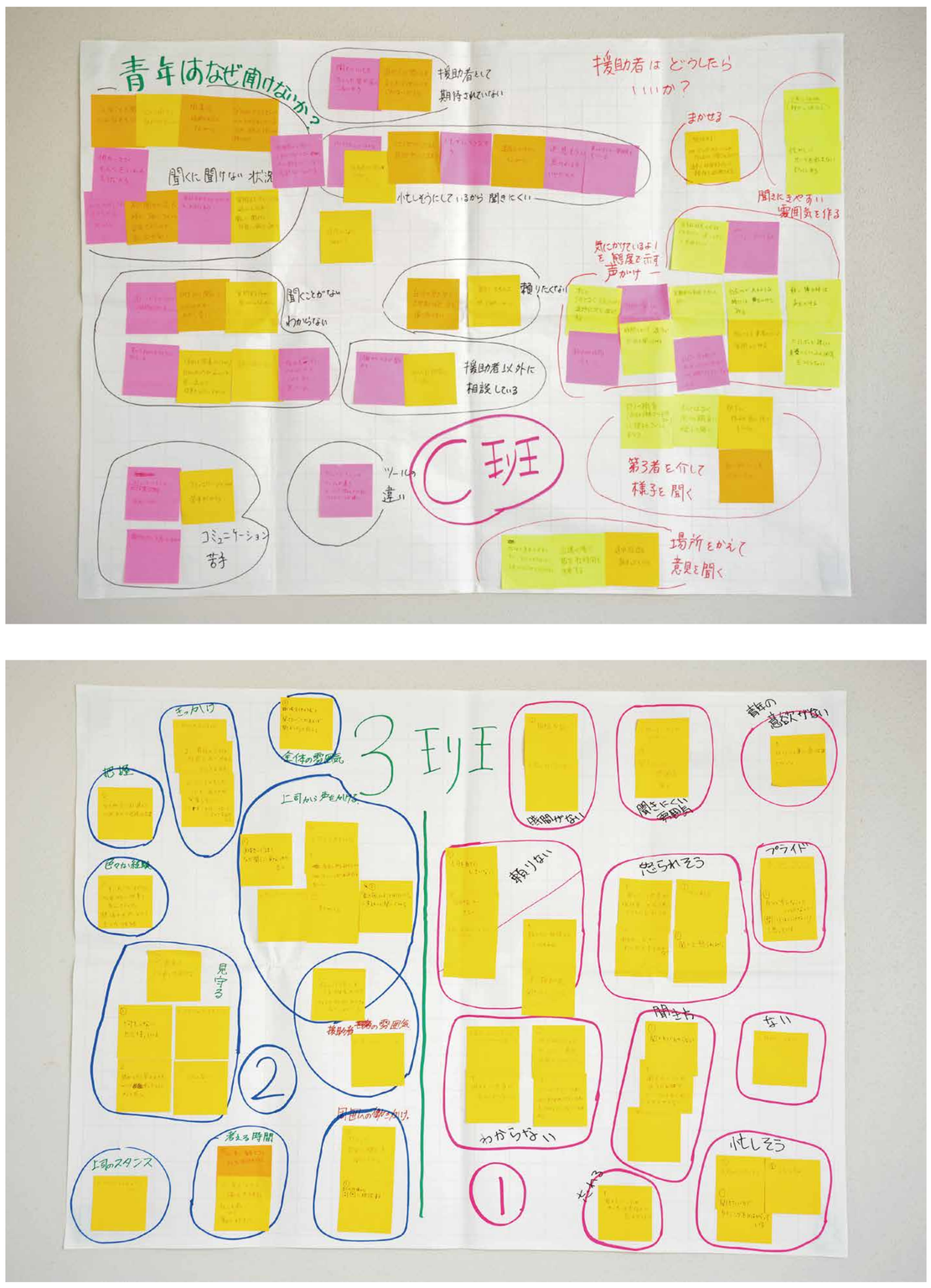

図3　若年者（上）と援助者（下）のポスター発表

コンフリクトは、双方の見方を共有することで気づきが生まれ、関係が高まる。未来の視点から現在や過去を意味づけることがそれを促すと考えられる。

［文　献］白井利明『＜希望＞の心理学―時間的展望をどうもつか―』講談社現代新書、2001年